

# 千秀だより

横浜市立千秀小学校

1月号

平成27年(2015) . 1 . 7



明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく願い申し上げます。

校長 市川 幸男

12日間の冬休みも終わり、寒さに震えていた校舎にも活気が戻ってきました。新年を迎え、子どもたちも新たな気持ちで校門をくぐったことと思います。校内を回ってみますと、どの教室からも、子ども達の歓声があがり、寒さに負けない元気な様子がかげえました。やはり、学校には子ども達の姿が一番似合います。とはいうものの、冬休みが終了したということは、4月にスタートした今年度が、残り3ヶ月となったということでもあります。この3ヶ月は、短い期間ではありますが、年度のまとめを進めるとともに、出来映えをしっかりと評価し、成果と課題として位置づけ、4月からの新たな出発に向けてといった、大変、重要な期間でもあります。そんな思いを抱きつつ、過ぎて行く月日の早さに、やや焦りにも似た気持ちでいたお正月でした。

そんな時、年末に自宅の机に置いたままの子ども達からの誕生日お祝いのメッセージ集が目に入りました。話は遡りますが、昨年11月17日、本校の138回目の創立記念日に、お祝いの集会を行いました。その際の学校クイズで、「校長先生の誕生日は1月1日である」と言う問題が出されました。その話で、「お正月に誕生日を迎えると、誕生日祝いやケーキも無く、本当につまらない」旨のことを子ども達に語りました。それを受けてのことでしょうか、12月25日、冬休み前の最後の授業の日、1年生が、私の誕生日へのお祝いのメッセージを届けてくれました。早速読ませていただきましたが、どの紙面を見ても、一字一語しっかりと書きこんであり、感激いたしました。これは時間をかけて読まなくてはと思い、家に持ち帰ったのですが、年末の慌ただしさに机に置き去りになってしまったわけです。あらためて読んでみますと、訥々とした文ではあるが、子ども達の人を思う温かさや、優しさが、しっかりと伝わって参ります。いつしか焦りの気持ちも消え、1月1日に生まれ自分は幸せだったと、心がとても豊かになりました。同時に、人権教育の時間はもちろんのこと日々の授業や学校生活の中で呼びかけてきた、「相手の気持ちになって行動する。自分がされて嫌なことは相手にもしない。思いやりの気持ちが人を大人にする。」は間違いなく、子ども達の心の中に芽生え、育っているのだと確信いたしました。千秀小の子ども達の笑顔をさらに高めていかななくてはと意を強くしたお正月でもありました。

さて、今年未(羊)年です。羊の漢字には「良きもの」という意味があるそうです。もと、日本に羊はいなかったのですが、中国をはじめとするユーラシア大陸では、3000年前から、人間とともに生活をし、十二支や星座に選ばれるほど、近い間柄だったそうです。当然、その羊の字もいろいろな使われ方をしています。代表的なものとして「美」があります。「大きな羊は美しい。」たっぷりの毛を蓄えた大きな羊は、多くの人の命を支え、生活を助ける。だから立派で優れたものである、といった意味から始まったのだと思います。他にも「羨」「善」「養」など肯定的な言い合いの漢字に使われています。私たち学校も、今の子ども達の育ちゆく姿に甘えること無く、自信を持って教育に励むとともに、保護者や地域の方々と手を携えて、未年にふさわしい美しい子ども達を育ててまいりたいと存じます。本年もよろしく願いいたします。

